

令和元年6月17日

東京電力ホールディングス株式会社
取締役会長 河村 隆 殿
代表執行役社長 小早川 智明 殿

株主 大友 哲

東京電力 HD 株式会社第 95 回定時株主総会に対する質問書

1. 揚水式水力発電設備の活用に関してお尋ねします。

最近の報道によりますと、九州電力や四国電力では太陽光発電の増加により余った電力を揚水発電所へ蓄えて利用することが始まっています。私、太陽光発電の事業者として最近感じていることは、風力発電やバイオマス発電などの他の発電方式よりも太陽光発電が断然優れており、今後もますます増加していくと感じています。また、太陽光発電の発電コストですが、最新の試算によれば、1kW 当たりの設備費は約 12 万円で、設備利用年数を 20 年として計算すると発電コストは 1kWh 当たり約 6 円と試算出来ます。土地代や金利などの経費を含まない単純な試算ですが、既存の火力発電よりも安い価格だと思います。そして今後も更に発電コストが低下していくと予想出来ます。したがって、電力会社の揚水式水力発電設備は必要不可欠で今後ますます活用していく必要があると思います。そこでいくつかの質問を致します。

- ① 昼間の余剰電力を蓄えるために揚水式水力発電設備稼働させた実績はありますか、ある場合は何日ぐらいですか。
- ② 揚水式水力発電設備は、夕刻の点灯ピークに稼働させて電力供給しますが、その電力の販売価格は 1kWh 当たり何円程度を希望しますか。
- ③ ②の電力販売価格を達成するためには、太陽光発電の電力買取価格が 1kWh 当たり何円まで低下する必要がありますか。
- ④ 当社の揚水式水力発電設備の今後の設備投資状況についての質問です。現在 767 万 8 千 kW があります。神流川発電所が 188 万 kW、葛野川発電所が 40 万 kW が未完成です。今後の完成までの予定をお知らせください。
- ⑤ 当社の揚水式水力発電設備を利用した、蓄電池を設置しない住宅向けの料金メニューの検討はしませんか。昼間の余った電力を預けて夜使うメニューです。

以上です。